2014 FIFA WORLD CUP Brasil

「赤い悪魔」19歳の救世主

FWオリジ 先月代表デビュー

【ベルギー―ロシア】ベルギーは19歳のオリジ（左から2人目）が決勝ゴール。自身の代表初得点にもなった （共同）

ベルギー1 [0―0 1―0] 0 ロシア

ベルギー：2勝 勝ち点6
ロシア：1分1敗 勝ち点1
H組 リオデジャネイロ 7万3819人

FIFAランキング	ベルギー 11	ロシア 19
シュート	11	13
コーナーキック	5	8
フリーキック	9	21
ボール支配率(%)	53	47

オリジ 後43分 得点

ベルギー 先発メンバー
フェルマーレン、アザール、サメドフ、コズロフ、コンパニー、ウィツェル、ルカク、グルシャコフ、イグナシェビッチ、アキンフェーフ、クルトワ、フェライニ、シャトフ、ベレズツキ、バンビュイテン、デブルイネ、ココリン、ファイズリン、メルテンス、カヌンニコフ、コンパロフ、アルデルウェイレルト
4-5-1-1-5-4 ロシア

▽交代【ベ】フェルトンゲン（前31分、フェルマーレン）オリジ（後12分、ルカク）ミララス（後30分、メルテンス）【ロ】エシュチェンコ（後17分、コズロフ）ジャゴエフ（後38分、シャトフ）ケルジャコフ（後45分、サメドフ）
▽警告【ベ】ウィツェル、アルデルウェイレルト【ロ】グルシャコフ

アルジェリア4 [3―0 1―2] 2 韓国

アルジェリア：1勝1敗 勝ち点3
韓国：1分1敗 勝ち点1
H組 ポルトアレグレ 4万2732人

FIFAランキング	アルジェリア 22	韓国 57
シュート	15	9
コーナーキック	5	7
フリーキック	14	17
ボール支配率(%)	46	54

スリマニ 前26分 得点 後5分 孫興民
ハリシェ 前28分 後27分 具滋哲
ジャブ 前38分
ブラヒミ 後17分

韓国 先発メンバー
尹錫栄、孫興民、フェグリ、マンディ、金英権、奇誠庸、朴主永、メジャニ、ブラヒミ、ブゲラ、エムボリ、鄭成龍、具滋哲、スリマニ、ハリシェ、洪正好、韓国栄、李青龍、ジャブ、ベンタレブ、メスバハ、李鎔
4-5-1-1-5-4 アルジェリア

▽交代【ア】ギラス（後28分、ジャブ）ラセン（後32分、ブラヒミ）ベルカレム（後44分、ブゲラ）【韓】金信煜（後12分、朴主永）李根鎬（後19分、李青龍）池東沅（後33分、韓国栄）
▽警告【ア】ブゲラ【韓】李鎔、韓国栄

米国2 [0―1 2―1] 2 ポルトガル

米国：1勝1分 勝ち点4
ポルトガル：1分1敗 勝ち点1
G組 マナウス 4万123人

FIFAランキング	米国 13	ポルトガル 4
シュート	15	20
コーナーキック	6	4
フリーキック	18	12
ボール支配率(%)	48	52

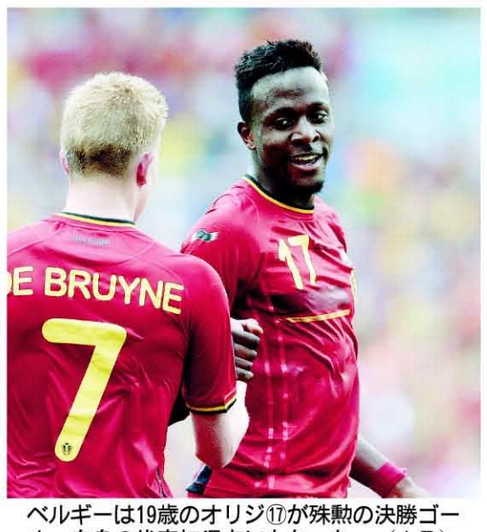
ジョーンズ 後19分 得点 前5分 ナニ
デンプシー 後36分 後50分 バレラ

米国 先発メンバー
ビーズリー、ベドヤ、ナニ、モウティーニョ、ベレイラ、コスタ、ビーズラー、ベッカーマン、デンプシー、ボスティガ、ベロゾ、ベト、ハワード、ジョーンズ、ブラッドリー、メイレレス、アルベス、A・アルメイダ、キャメロン、ロナルド、ジョンソン、ズシ
4-5-1-3-3-4 ポルトガル

▽交代【米】イエドリン（後27分、ベドヤ）ウォンドロウスキ（後42分、デンプシー）ゴンザレス（後46分、ズシ）【ポ】エデル（前16分、ボスティガ）カルバリョ（後1分、A・アルメイダ）バレラ（後24分、メイレレス）
▽警告【米】ジョーンズ

◉W杯通算2300ゴール 米国―ポルトガルの後半19分に米国のジョーンズがたたき込んだ豪快なミドルシュートが、W杯通算2300ゴールとなった。前回大会決勝の延長後半にスペインのイニエスタが挙げた決勝点が通算2208ゴールで、ジョーンズの得点は今大会92点目。第11日終了時点で94ゴールが生まれている。 （共同）

ベルギー16強進出弾



ベルギーは19歳のオリジ⑰が殊勲の決勝ゴール。自身の代表初得点にもなった （AP）

起用に応えた19歳の活躍に、ベルギーのウィルモッツ監督はさぞかし目を細めていることだろう。0―0で迎えた後半43分、アザールの折り返しを落ち着いて決めたのは、先月代表デビューを飾ったばかりのオリジだった。

イングランド・プレミアリーグで活躍するアザール（チェルシー）を筆頭に、中盤の陣容はよりどりみどり。それに引き換え、指揮官の悩みの種はもっぱらストライカーだ。

センターフォワードの最有力候補だったベンテケが、4月にアキレス腱断裂で離脱。ロシア戦では初戦に続いて21歳のルカクが起用されたが、またしても精彩を欠いた。

「ベンテケのケガがなければ、オリジはここにはいなかったはずだ」とウィルモッツ監督。フランス1部リーグのルールに所属するプロ2年目の新鋭が〝圏外〟から一気に存在感を高めつつある。

記念すべき代表初ゴールに「マラカナン競技場で得点できたのは特別だ。監督の信頼に応えていきたい」。元ケニア代表の父を持つ逸材が、レギュラー奪取へ意欲を見せた。

（細井伸彦）

10代ゴールはメッシ以来

ベルギーをベスト16に導く値千金のゴールを挙げたのは、途中出場した19歳のオリジ。ロイター通信によると、2006年ドイツ大会の1次リーグで19歳になる直前、セルビア・モンテネグロ戦で奪ったメッシ（アルゼンチン）以来となる10代での得点となった。

W杯の最年少得点記録は「サッカーの王様」ペレが持っている。1958年スウェーデン大会準々決勝のウェールズ戦でゴールを決めたときは17歳239日。準決勝、決勝でもゴールを量産してブラジルを初優勝に導き、スターダムを駆け上がった。

18歳で初出場した98年フランス大会で活躍したオーウェン（イングランド）は「ワンダーボーイ」と呼ばれた。1次リーグのルーマニア戦でW杯初得点をマーク。決勝トーナメント1回戦のアルゼンチン戦では約40メートルを疾走してゴールネットを揺らし、度肝を抜いた。

ちなみに、W杯史上最年長ゴールはミラ（カメルーン）が94年米国大会1次リーグのロシア戦で記録した42歳39日。 （共同）

W杯での得点時の年齢

大会	名前(所属)	年齢
1958年	ペレ(ブラジル)	17歳239日 最年少記録
94年	ミラ(カメルーン)	42歳 39日 最年長記録
98年	オーウェン(イングランド)	18歳190日
2006年	メッシ(アルゼンチン)	18歳357日
14年	オリジ(ベルギー)	19歳 65日

ロナルド 輝き取り戻せ

【米国―ポルトガル】ポルトガルは手負いのロナルド（右）が絶妙クロスから同点ゴールをアシスト。最終戦でもチームを救えるか （共同）

崖っぷちポルトガル 手負いのエース

非常事態のポルトガルを手負いのロナルドが土壇場で救った。後半ロスタイム。5分と表示された時間も残りわずかの崖っぷちで、ロナルドが右サイドから絶妙な高速クロスを上げてバレラの同点ゴールをアシスト。決勝トーナメント進出へのかすかな望みをつないだ。DFとGKの間を狙い澄ましたキックはまさに絶妙だった。

チームは満身創痍だ。16日のドイツ戦で負傷したサイドバックのコエントランは離脱し、FWのH・アルメイダも途中退場。米国戦では正GKルイパトリシオも出場せず、第1戦から先発4人が入れ替わった。

ロナルドも万全とはいえない。左足に故障を抱え、チーム練習に復帰したのはW杯開幕直前。ドイツ戦と米国戦にはフル出場したものの「いつだって故障を抱えてプレーしてきた」と痛みと闘い続けていることを示唆している。実際、この日も本来の輝きとは遠い内容だった。7本放ったシュートで枠に飛んだのは2本のみ。前線で孤立してしまうことも多く、左膝のテーピングが物語る影響は大きそうだ。

2試合を終えて勝ち点1でG組最下位に沈むポルトガル。ベント監督も「数字的に可能性は残ったが、難しい状況だ」と認める苦境だが、エースは「サッカーでは何でも起こりえる」と前を向いた。勝利が最低条件となるガーナ戦に向け、本人もチームも輝きを取り戻せるか―。 （奥山次郎）

絶対的水平感覚で倒れない

スターは何故美しいのか

ドログバをはじめアフリカの選手は身体能力が高いといわれるが、大きい体とたくましい筋肉は、むしろ力を抜くためにある。力を入れるためにあるのではない。身体能力が高いとは、フィジカルリテラシー（体の使い方）とその感じ方が優れていることをいう。

日本の初戦のコートジボワール戦。時計は後半45分を回っていた。コートジボワールがCKからキープ力のあるドログバにショートパス。すぐさま、長友が体を寄せに行った。長友の圧力にドログバは重力と落下直後に地面から得られる地面反力とで悠々と対抗。森重も体を寄せ、2人は共同でドログバのバランスを崩そうとした。体は左に傾きかけたが、わずかの間倒れず、球をキープした（そのあと反則をアピールするかのように倒れた）。

ドログバ コートジボワール

（上）長友（右）と森重（左）に挟まれながら倒れないドログバ （下）獲物を追いかけるチーター。どちらも体は傾きながらも、両目を結んだ線は水平を保っている （いずれもAP）

「ドログバは身体能力が高い」と短絡的に解釈する時代はそろそろ終わらせたい。要は、ドログバの頭部が傾かなかったことにある。体は傾いても、頭は傾かずに両目を結んだ線が水平をキープしていた。バランスを保つには、神経系の中枢センターである脳を地球上の絶対的な水平座標軸からぶらさないでキープする必要がある。頭が傾くと脳は耳の奥にある平衡感覚器官を通じ、水平座標軸のずれを計算し直さなければならない。絶対的水平感覚を失った瞬間がフィジカルリテラシーを失った瞬間である。計算し直した水平感覚が地球上の水平と一致しているともかぎらない。

前回、ネイマール（ブラジル）の体の使い方を解説した。彼のシュートやパスといったしなやかな美技を支えているのは水平感覚だ。草原で獲物を追いかけるライオンやチーターも、獲物の急激な方向転換に合わせて追走するときに、体は傾かせながらも、頭部は水平をキープする。そういうリテラシーを遺伝として持っている。ドログバやネイマールの美技も、人間に内在する野生の感覚が外に表れたものである。「美」には良い、優れたという意味がある。世界の一流選手がその優れた美しいフィジカルリテラシーを競い合う。それがW杯である。

◇

前回のネイマールの記事中、相手とコンタクトした際に外旋していたのは右腕ではなく左腕でした。

（小田伸午 関西大学人間健康学部教授―スポーツ科学）

―随時掲載

三浦淳寛のチェックEYE

スーパースター 最後に大仕事

世界のスーパースター、エースとはこういうものなのか。ポルトガルのロナルドはほとんど仕事をさせてもらえなかったが、最後に文字通り最高のクロスできりきりの可能性を残した。

ロナルドはコンディションの問題というより、むしろ米国の組織的な守備に封じられたとみるべきだろう。役割をはっきりさせて決まり事を守り、先制点を許した場面以外はほぼ完璧。対するポルトガルは出場停止のペペらを欠き、DFラインがそろっていなかった。米国は攻撃でもデンプシーが前線で起点になり、ビルドアップにも入っていく。ジョーンズのミドルシュートも素晴らしかった。身体能力、勝利への執着心など、ドイツ出身のクリンスマン監督に〝ゲルマン魂〟を植え付けられた力のあるチームという印象だ。

ただ、この結果はどう影響するか。「決まった」と思った1次リーグ突破が次のドイツ戦にかかるだけにメンタル的には難しい。

逆にポルトガルは失うものがない。得失点差の争いでは厳しいが、チャンスはある。劇的なロナルドの最後のパスのようなプレーは、ときとしてチームにいいきっかけをもたらす。首の皮一枚で踏みとどまり、ガーナ戦はやってやろうという意識が強くはたらくはずだ。G組はにわかに面白くなった。

（サッカー解説者、元日本代表）